

\* JOB NO. \*

取材をして記事を執筆

38

# 新聞記者

職場では  
こんな人も  
働いています

- 広告 ● 印刷 ● 販売 ● 総務 ● 事業
- システム・グラフィック ● 経理 ● デジタルメディア

## この仕事のキーワード

- 記者
- 編集
- 独自ダネ
- 地域づくり
- 知的好奇心
- 復興・創生

## こんな人に向いています

- ニュースや世の中のことに  
関心がある人
- 文章を書いたり写真を撮ったり  
するのが好きな人
- いろいろなことを面白がって知  
ると思う人



### 世の中で起きていることや 役に立つ情報を正確に早く

世の中で起きていること、皆さんが疑問に思っていること、役に立つ情報を正確に早く伝えるのが新聞記者の役割。声を上げられない人の思いや、頑張っている人の姿を世の中に届けるのも大事な仕事です。自分の記事が困っている人の役に立ったときや、取材相手が記事を喜んでくれたときにやりがいを感じます。記事は選んだ言葉一つで意味が大きく変わります。取材先としっかり向き合い表現することを大切にしています。

入社6年目  
渡部さん

### 私がこの仕事に就いたきっかけ

わが家ではずっと「福島民報」を購読していたので、新聞は常に身近な存在でした。記事を書いたり、写真を撮ったりすることに興味があり、この仕事を志しました。現在は、音楽のコンクールや出版物などを取材する、編集局文化部で働いています。

## 新聞記者の仕事内容

### 情報収集

記事にしたい事柄があったら、取材先に電話でアポイントを取ります。読者の方から取材してほしいという情報をお寄せいただくこともあります。



### 取材

イベントなどの場合は主催者に概要や開催への思いを聞きます。事件の場合は近所の方などにも話を聞いて、動機や背景をひもときます。



### デスクへの確認

取材の内容をまとめて、記事掲載の指揮をとるデスクに伝えます。掲載すべき内容か、どれぐらいの大きさで扱うかなどを指示されます。



### 原稿を書く

わかりやすく、正確な記事の執筆を心掛けています。曖昧な言葉は使わず、具体的に数字で表現するなど、想像しやすい記事にしようと努めています。



## 必要な資格・スキル

- 普通自動車第一種運転免許
- 特に資格などは必要ありません。しかし、いろいろな資格や免許を取得するために勉強したことや、外国語やコンピューターのスキル、写真撮影の経験が役に立つこともあります。

## 株式会社福島民報社

福島市太田町13番17号 TEL/024-531-4111

創業/1892年8月 従業員数/約300名

支社/郡山本社、11支社(うち県外3支社)、15支局

福島民報社



会社見学  
OK

職場体験  
OK

出張授業  
OK



## 株式会社福島民報社ではこんな仕事をしています

### 「福島民報オンライン新聞」

福島民報は1892年に創刊。以来、県民紙として親しまれながら、福島県民とともに歩んできました。県下の発行部数を誇り、県民の方々に最も親しまれ、読んでいただいている新聞です。「紙媒体」だけでなく、デジタル分野の取り組みも加速させています。紙面をスマートフォンやタブレット、パソコンで見ることができるサービス「福島民報オンライン新聞」を始めたほか、さらに過去の記事や紙面を検索できる公開データベース(DB)「福島民報データベース」も開始しました。オンライン新聞と公開DBというサービスを武器に、新たな読者層の獲得に力を入れています。デジタルメディア局には、事業グループ、企画グループという部署があり、多くの人が働いています。



### 「ふくしま駅伝」や「風とロック芋煮会」を開催

さまざまな分野で大会やイベントを企画・開催しています。「ふくしま駅伝」や軟式野球大会などのほか、「風とロック芋煮会」は本県の代表的な音楽イベントとして定着しました。



### 出版物の企画・編集

県内の現状や人物などを紹介する出版物の企画・編集、自費出版のお手伝いもしています。地域の消防、火災予防に努める優良消防団には毎年「民報金ばれん」を贈っています。



## 県内のSDGs活動のけん引役として、プロジェクトやイベントなどを展開しています

SDGsの実現に向け、県内の団体や大学、企業などと連携し、「ふくしまSDGsプロジェクト」を運営しています。2022年には「ふくしまSDGs博」を開催。内閣府が主催する「2022年度地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」の優良事例として表彰されました。イベントは「ふくしまSDGs未来博」と名称を変え、毎年開催しています。

